

UBITEQ
UBIQUITOUS TECHNOLOGY

UBITEQ
UBIQUITOUS TECHNOLOGY

第34期ビジネスレポート
2009年7月1日～2010年6月30日(期末)



ユビテックはチャレンジ25
キャンペーンに参加しています。



環境保全のため、植物油インキとFSC認証紙を使用して印刷しています。



証券コード：6662

株式会社ユビテック

1年の歩み

| | | | | | | | |
|--|---|--|---|--|---|----|----|
| <p>2009</p> <p>7/1 BXシリーズ販売開始</p> <p>7/6 IPA「組み込みシステムへのセキュリティへの取り組みガイド」を一般公開(ユビテックが策定に協力)</p> <p>7/31 Ubiteq Energy Watcher 販売開始</p> | <p>8/4 社団法人日本医師会治験促進センターe-Learning WORLD 2009実行委員会、フジサンケイビジネスイイ主催第6回「日本e-Learning大賞」で「審査委員特別賞」を受賞(ユビテックのWeb2.0技術を利用したSNSとe-Learningの融合システムが貢献)</p> | <p>10/5 「CEATEC JAPAN 2009」にローム株式会社製「紙幣鑑別向けCIS」デモ機展示(ユビテック製イメージセンサ共通プラットフォーム使用)</p> <p>10/5 グリーン東大工学部プロジェクトがグリーンIT推進協議会主催「グリーンITアワード2009・審査員特別賞」を受賞 ※Topics01参照</p> <p>10/28 グリーン東大工学部プロジェクトが日経BP社主催「グリーンITユーザーアワードプロジェクト賞」を受賞 ※Topics01参照</p> <p>10/29 グリーン東大工学部プロジェクトにて施設利用の無駄遣いを見える化(BX-Officeで講義室と会議室の利用実態が明らかに)</p> | <p>11/27 「製品評価ソリューション」の提供を開始</p> | <p>12/3 「宙博2009」に環境ソリューション「BE GREEN」を出展</p> <p>12/4 ネットワンパートナーズ(株)とBX-Office販売代理店契約を締結し、「CFMS by BX-Office」販売開始 ※Topics02参照</p> <p>12/9 エコデザイン2009国際シンポジウムにて「ITによる省エネ」成果を発表</p> <p>12/10 「エコプロダクツ2009」に「UBITEQ BE GREEN SOLUTION」を出展 ※Topics03参照</p> | <p>2010</p> <p>4/15 IPA「国内外の自動車の情報セキュリティ動向と意識向上策に関する調査報告書」を一般公開(ユビテックが自動車の情報セキュリティの現状と課題の調査に協力)</p> <p>5/11 東大グリーンICTプロジェクトが東京大学第二本館棟のエネルギー見える化システムを構築</p> <p>5/27 ユビテックとナノオプトニクス・エナジー、「Green Plant」構想で業務提携をし、鳥取県米子市工場へ、先進的な環境エネルギー計測・制御システムを導入予定 ※Topics04参照</p> <p>6/11 「Interop Tokyo 2010」シスコシステムズ(合)ブースにて、「CFMS by BX-Office」が進化した、ITによる融合ファシリティマネジメントソリューション「CFMS-II」を展示 ※Topics04参照</p> | | |
| 7月 | 8月 | 10月 | 11月 | 12月 | 4月 | 5月 | 6月 |

Topics 01 グリーン東大工学部プロジェクトが2つの賞を受賞 ユビテックのBX-OfficeがグリーンIT化実証実験で貢献しました。

2008年6月の発定時よりユビテックが参画している「グリーン東大工学部プロジェクト(現:東大グリーンICTプロジェクト)」がグリーンIT推進協議会主催「グリーンITアワード2009・審査員特別賞」および日経BP社主催「グリーンITユーザーアワードプロジェクト賞」を受賞しました。

ユビテックはBX-Officeを活用した実証実験を進めており、今まで把握できていなかった事象や効果をグラフや数値などで視覚的に把握できるように「見える化」し、計測されたデータを基に、どこを削減すれば効果的・効率的な省エネができるかに焦点をあて、省エネに向けた課題の洗い出しと解決に向けた検討を進めてきました。今後もグリーン東大工学部プロジェクト参画企業として最先端の省エネ・環境対策技術の統合と評価について貢献していきます。



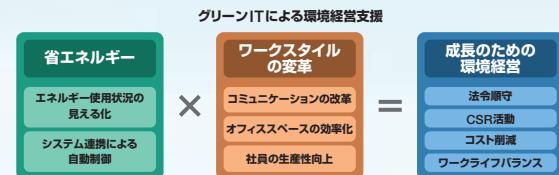
▲ グリーンITアワード



▲ グリーンITユーザーアワード

Topics 02 ネットワンパートナーズ(株)と販売代理店契約を締結し、「CFMS by BX-Office」の販売を開始しました。

2009年12月、ユビテックが開発したインターネットと設備制御の統合ゲートウェイBX-Officeに関して、ネットワンパートナーズ(株)と販売代理店契約を締結し、ネットワンパートナーズ(株)からBX-Officeを搭載した「CFMS by BX-Office」の販売を開始しました。「CFMS by BX-Office」は、省エネルギー環境の実現と、オフィスビルで働く人のワークスタイル変革を同時にもたらし、環境にやさしく、生産性の高い経営環境を構築できる画期的なソリューションです。ネットワンパートナーズ(株)とシスコシステムズ(合)との強力なチーム編成に基づく販売開始は、快適なワークスタイルと省エネルギーの両立という市場を一層拡大するものと期待しています。



Topics 03 「エコプロダクツ2009」に「UBITEQ BE GREEN SOLUTION」を出展しました。

2009年12月10日~12日に、東京ビックサイトにて開催された「エコプロダクツ2009」オリックス(株)展示ブース内において、ユビテックとオリックス(株)が共同開発したカーシェアリング車載システムの映像および実機紹介を行いました。その他に、快適な省エネオフィス空間を演出する「BXシリーズ」についての紹介やグリーン東大工学部プロジェクトの見える化WGの成果発表を行いました。ユビテックはカーシェアリング車載システムやBXシリーズなどの環境ソリューション製品を世に送り出すことで、環境負荷低減に貢献していきます。



▲ エコプロダクツ(BX)



▲ エコプロダクツ(講演)

Topics 04 「Interop Tokyo 2010」シスコシステムズ(合)ブースに「CFMS-II」を展示しました。

2010年6月7日~11日に幕張メッセにて「Interop Tokyo 2010」が開催されました。「Interop Tokyo 2010」は、グリーンIT、クラウドコンピューティング、可視化など、企業の課題解決につながる最新のキーワードを網羅した内容のイベントです。ユビテックは、シスコシステムズ(合)ブース内にて「CFMS by BX-Office」を進化させた「CFMS-II」及び「UBITEQ-G-SERVER」、「UBITEQ-G-PILOT」のデモンストレーション、製品プレゼンテーションを行いました。「CFMS-II」は今まで各拠点のみで行っていた電力使用量などの管理を、多拠点で管理することを可能にしました。また、SaaS型なので低コストでの導入も可能です。デモンストレーションの他に、グリーン東大工学部プロジェクト(現:東大グリーンICTプロジェクト)における、見える化WGの実証実験の省エネ効果について講演を行いました。ユビテックは、企業の省エネ対策に貢献すべく、「UBITEQ BE GREEN SOLUTION」の開発を進めてまいります。

※「UBITEQ BE GREEN SOLUTION」の製品詳細については5ページに掲載しています。
※「CFMS-II」はネットワンパートナーズ(株)より販売されています。



▲ インタロップ



トップメッセージ

ユビキタス技術を駆使した、自社製品・自社サービスの提供により、環境保全に貢献していきます。

株主の皆様にはますますご清祥のこととお慶び申し上げます。また平素は格別のご支援を賜り厚く御礼申し上げます。2010年6月14日に当社は大阪証券取引所ニッポン・ニュー・マーケット「ヘラクレス」上場5周年を迎えました。これはひとえに株主の皆様をはじめとする多くの方々のご支援・ご指導の賜物と感謝しております。

第34期も厳しい事業環境となりましたが、グループ全体によるローコストオペレーション体制を維持すると共に、自社製品や自社サービス提供型事業へと事業構造の変革を着実に進めてまいりました。2010年7月にはオリックス(株)の直接子会社になりましたので、ユビテックの事業の強みを生かしつつ、オリックス(株)との連携を強化することにより、特に以下の4点に注力していきたいと考えております。

■ 「BX-Office」を進化させ「SaaS TYPE」を提供開始

オフィス環境における省エネ・安全・安心を実現する環境ソリューションBX-OfficeをSaaS TYPEに進化させた、「UBITEQ-G-SERVER」と「UBITEQ-G-PILOT」の提供を開始しました。また、新製品の提供を機に環境ソリューション「BE GREENソリューション」を「UBITEQ BE GREEN SOLUTION」へと名称変更しました。BX-Officeを進化させたことで、多拠点管理を実現し、導入コストも抑えることが可能です。本製品によって、各企業の環境保全への取組みに貢献します。>>> 詳細は5ページに掲載しています。

■ 米子電気自動車生産工場にBX-Officeを導入し、「マイクログリッド」実現へ

ユビテックは、鳥取県米子市の(株)ナノオプトニクス・エナジー電気自動車生産工場において、今までビル用に展開していたBX-Officeを応用し、工場内の発電、蓄電設備、更に工場と付帯オフィス設備の照明や空調設備をネットワーク連携させ、工場内の電力エネルギーを管理します。施設内におけるエネルギーを効率よく管理・制御することで、「マイクログリッド」ソリューションの実現・実施を目指します。>>> 詳細は6ページに掲載しています。

■ カーソリューション事業の拡大

オリックスグループ入り協業第一弾として、2008年からオリックス自動車(株)のカーシェアリング用車載機の開発をさせて頂きました。昨年は、テレマティクス用サーバ&車載機の開発を終了させ、本年は新たなカーソリューションの開発を実施する予定です。電気自動車(EV)普及の気運など、自動車市場の大きな変革の到来でもあり、新旧交代を予感させるこのビジネスチャンスに当社のセンシング技術、通信技術を武器に新たな市場創造に挑戦していく所存です。

■ オリックス(株)の直接子会社へ

2010年7月には、オリックス(株)の直接子会社になったことにより、オリックス自動車(株)との協業のみならず、当社の注力事業(カーソリューション、ビルソリューション、家ソリューション)とオリックス(株)の手がける事業のそれぞれの強みを生かしつつ、環境ソリューションである「UBITEQ BE GREEN SOLUTION」を中心に自社製品・サービス開発及び拡販を進めていき、更なる成長を加速させていく所存です。>>> 詳細は4ページに掲載しています。

今後も当社の企業理念に従い、引き続き社員一丸となり更なる成長に向け努力してまいりますので、一層のご支援・ご鞭撻を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

企業理念

「次世代ユビキタス技術の創造に挑戦」
「技術と顧客志向」



代表取締役社長 荻野 司

環境事業強化、オリックス(株)の直接子会社へ

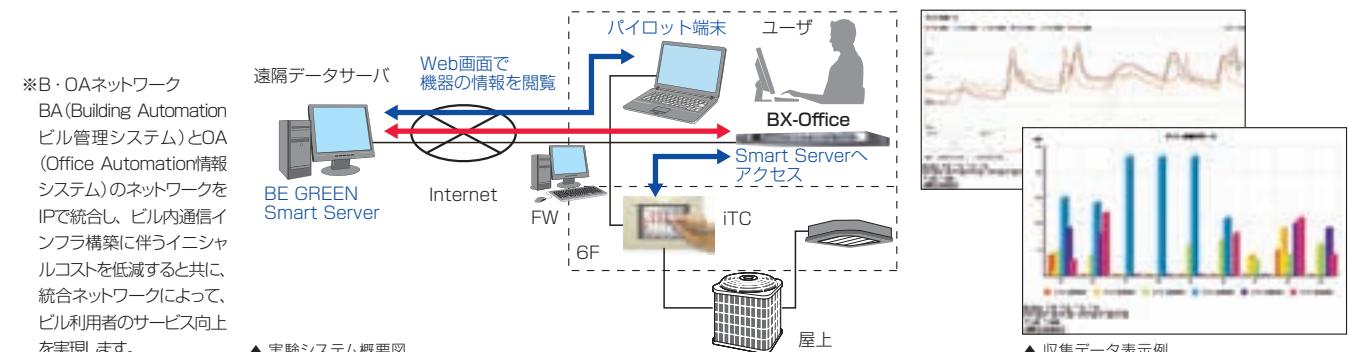
2010年7月、オリックス(株)が(株)インターネット総合研究所(IRI)との間で、IRIが保有するユビテックの全株式85,272株(2010年6月30日現在)を譲り受ける契約を締結したことにより、ユビテックはオリックス(株)の直接子会社となり、筆頭株主もIRIよりオリックス(株)へ異動となりました。

オリックス(株)は現在、ESCO事業、カーボンオフセット、バイオマス燃料の供給などの環境事業を手がけており、オリックスグループの営業基盤である自動車、不動産、ITなどの分野で同事業の拡大・推進を図っています。ユビテックの注力事業(カーソリューション、ビルソリューション、家ソリューション)とオリックス(株)の手がける事業のそれぞれの強みを生かし、まずは自動車、不動産、ITなどの個別分野において省エネルギー化サービスを推進し、将来的にはこれらの個別サービスを複合的に組み合わせ、街や地域全体の環境負荷低減につながるサービスへビジネスの拡大を目指します。

東大グリーンICTプロジェクト ダイキン工業(株)と共にエネルギー見える化システム構築

東大グリーンICTプロジェクトにおいて、情報収集インフラにインターネットを活用することで、遠隔から本郷キャンパス内に第二本部棟のエネルギーデータ見える化システムをダイキン工業(株)と共に開発しました。エネルギーデータ見える化の実証システムによって、運用課題の抽出とCO₂削減対策の検討が可能となりました。

エネルギーデータ見える化実証システムは、ビル設備系のネットワークと情報系のネットワークの統合を実現し、ビルに設置された空調システム(ダイキン工業製)の運用状態・エネルギー消費を計測し、そのデータをユビテックのBX-Office経由でキャンパス外のインターネット上のデータサーバに収集することで、従来のセキュリティ上の課題から構築が難しかったB・OAネットワーク*統合を達成しました。今後は、このシステムを使い全学のビル設備データ収集システムを構築し、詳細な設備の運用実態とムダの解析により、中小規模の建物の効率的なCO₂削減手法のモデルケースの確立を目指します。





新製品 「UBITEQ-G-SERVER」 「UBITEQ-G-PILOT」 省エネソリューション「BX-Office」を進化させ「SaaS TYPE」を提供開始 ～導入コスト削減と多拠点管理を実現～

オフィス環境における省エネ・安全・安心を実現する環境ソリューションBX-OfficeをSaaS TYPEに進化させた、「UBITEQ-G-SERVER」と「UBITEQ-G-PILOT」の提供を開始しました。新製品の提供を機に「自然に出来てしまう、やりたくなる省エネ」を先進のコビキタス技術で実現する環境ソリューションBE GREENソリューションを「UBITEQ BE GREEN SOLUTION」へ名称を変更しました。

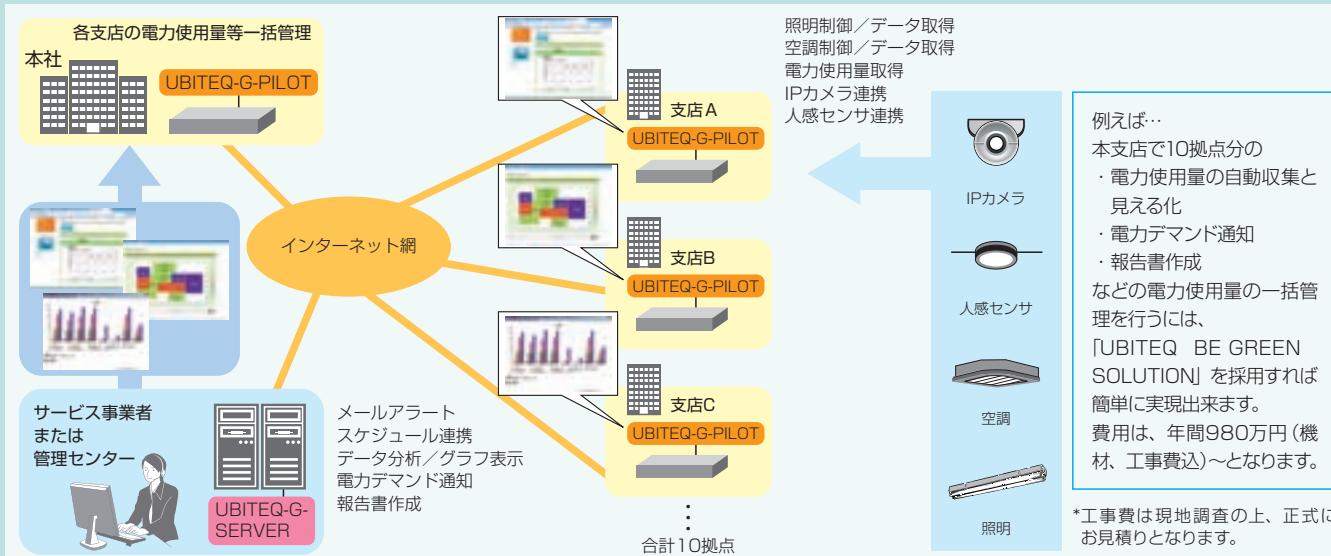
BX-OfficeをSaaS TYPEに進化させたことで、今まで出来なかった多拠点管理や各拠点同士での連携を可能にし、各拠点のエネルギー情報等をサーバで一元管理することによって、データ解析、報告書作成、コンサルティングなど、企業の課題解決の実現性を更に高めました。特に、多くの支店を持つ企業などは、SaaS TYPEの製品を導入することで、各支店の電力使用量等を一元管理出来るだけでなく、集約したデータを分析することで各支店の電力使用量の比較・分析も可能となります。集約したデータは報告書としてダウンロードも可能であり、改正省エネ法や東京都環境確保条例対策に対応しています。

また、SaaS TYPEではない省エネソリューションと比較をして、月額利用が可能なSaaS TYPEは、導入時に多額のコストをかけずに、低コストで導入することが可能です。更にバージョンアップ時も、サーバ管理者等が常にアプリケーションを管理し、最新のものを提供しているため、利用者はネットワークを介して手軽に最新のアプリケーションを利用することが可能です。「UBITEQ-G-SERVER」と「UBITEQ-G-PILOT」については、「Interop Tokyo 2010」にも出展いたしました。

引き続きコビテックでは、環境保全に向けITの持つ可能性を追求しながら、省エネ活動支援ソリューションを提供する「UBITEQ BE GREEN SOLUTION」のシステム開発を積極的に進めてまいります。



▲ Interop Tokyo 2010

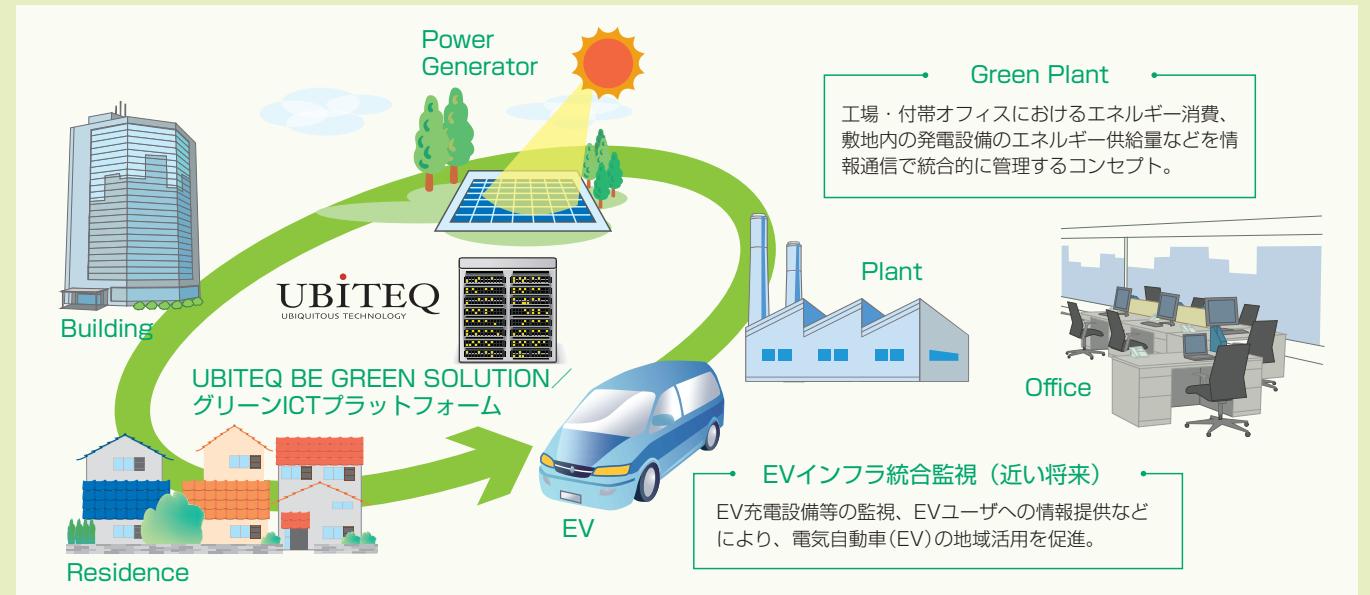


米子の電気自動車(EV)生産工場へCFMS by BX-Office導入



▲ 米子工場写真

コビテックは、(株)ナノオプトニクス・エナジーが旧日本たばこ産業(JT)米子工場に設置する電気自動車生産工場のITによるGreen化において業務提携することに合意しました。コビテックと(株)ナノオプトニクス・エナジーは、ICTを活用し、工場施設内において、創エネ/蓄エネ/省エネを連携させるトータルソリューションである、「UBITEQ BE GREEN SOLUTION/グリーンICTプラットフォーム」を構築します。更に、ICTを活用して工場と付帯オフィスのエネルギー管理を統合的に行うと共に、地域の拠点と連携することで地域トータルでの省エネを実現するコンセプト「Green Plant」構想について、共同で検討を開始する予定です。コビテックと(株)ナノオプトニクス・エナジーは、先進的なICTを活用した「Green Plant」を実現するため、新工場にコビテックのBX-Officeを基盤とするファシリティマネジメントソリューション(CFMS by BX-Office)を導入し、工場と付帯オフィスのエネルギー管理の統合化を図ります。将来的には、電気自動車という環境に配慮した製品を省エネに配慮した工場で生産し、更にその製品を地域に普及促進する段階まで、ICTの活用によりトータルでサポートすることを目指します。今後は、「UBITEQ BE GREEN SOLUTION/グリーンICTプラットフォーム」を、鳥取県米子市およびその他地域へ展開を進めていきます。



当期の業績について

当連結会計年度におけるわが国経済は、アジアや新興国に向けた輸出が緩やかに増加し、景気持ち直しの兆しも見られましたが、総じて景気の回復感に乏しい状況が続いております。当社グループの関連市場においても、一部では企業収益や設備投資の回復は見られるものの、完全な回復には至らず、引き続き厳しい事業環境となりました。このような状況の中で、既存事業の落ち込みをカバーすべく、前連結会計年度に引き続きグループ全体によるローコストオペレーション体制を維持すると共に、事業効率化とコスト削減などの諸施策に取り組んでまいりました。

また、事業構造の変革として、受託開発事業中心の構造から顧客先企業の状況に影響を受けにくい自社製品と自社サービス提供型事業へと移行すべく、BX-Officeや車載システムを中心とした「自然に出来てしまう、やりたくなる省エネ」を実現する「UBITEQ BE GREEN SOLUTION」を中心に自社製品・サービスの開発及び販売を進めています。

この結果、当連結会計年度の業績は、売上高は3,964百万円（前期比18.8%減少）、営業利益は262百万円（前期比1.8%増加）、経常利益は278百万円（前期比5.4%増加）、当期純利益は123百万円（前期比6.1%増加）となりました。

連結各セグメントの概況について

電子機器事業は、既存顧客向けの量産案件がエレクトロニクス業界不振による影響を受け、映像エンジン等の既存製品

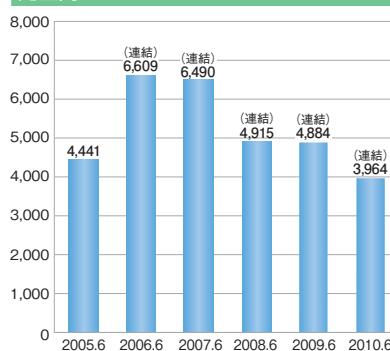
の販売が大幅に減少したため、前連結会計年度に引き続き厳しい事業環境となりました。このような事業環境の下、業務全体を見直しながら関係協力会社との連携を今まで以上に強化したことにより、仕入れコストや特に製造に関わる外部委託費用について大幅な削減を実現しました。また、自社開発製品であるオリックス自動車(株)向けの車載機を順調に受注したことにより利益率の改善に貢献しました。

この結果、当連結会計年度の売上高は1,959百万円（前期比17.8%減少）、営業利益は330百万円（前期比109.6%増加）となりました。

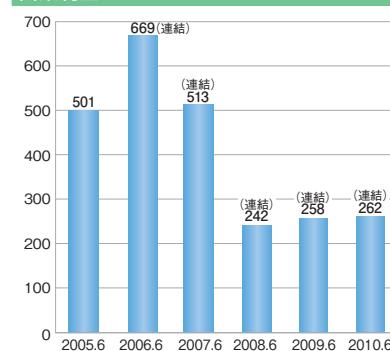
なお、Ubiteq HK Ltd.は業務効率化及びコスト削減のために業務を本社に移管しました。現在Ubiteq HK Ltd.は営業活動を停止しており重要性が乏しいと判断されるため、第1四半期連結会計期間末より連結除外しております。

モバイル・ユビキタス事業は、総務省や公共団体及び資本提携先であるパナソニック電気(株)からの受注は堅調だったものの、子会社の業績不振及び当社の主力事業であった携帯電話評価業務の受注が減少し、子会社や移動機評価センターの移転等を実施し固定費削減を進めてきましたが、BXシリーズをSaaS TYPEに進化させ、将来的にさらにバージョンアップさせるための先行投資による費用の増加も営業利益の減少に影響し、当連結会計年度の売上高は2,004百万円（前期比19.8%減少）、営業利益は275百万円（前期比44.9%減少）となりました。

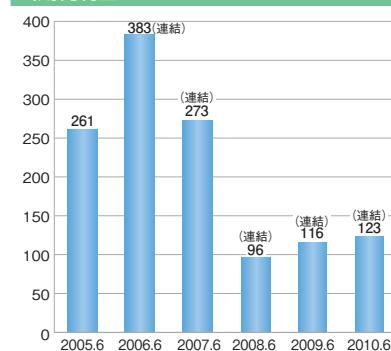
売上高 (百万円)



営業利益 (百万円)



当期純利益 (百万円)



連結貸借対照表

(単位：千円)

| | 前連結会計年度 (2009年6月30日) | 当連結会計年度 (2010年6月30日) |
|-------------|-------------------------|-------------------------|
| 資産の部 | | |
| 流動資産 | 3,411,103 | 3,519,351 |
| 現金及び預金 | 1,876,107 | 2,273,929 |
| 受取手形及び売掛金 | 1,121,483 | 1,003,225 |
| たな卸資産 | 157,601 | 137,568 |
| その他 | 255,910 | 104,627 |
| 固定資産 | 385,827 | 312,785 |
| 有形固定資産 | 80,053 | 83,830 |
| 無形固定資産 | 50,247 | 32,375 |
| 投資その他の資産 | 255,527 | 196,578 |
| 資産合計 | 3,796,930 | 3,832,137 |

連結損益計算書

(単位：千円)

| | 前連結会計年度 (2008年7月1日から 2009年6月30日まで) | 当連結会計年度 (2009年7月1日から 2010年6月30日まで) |
|-------------------|--|--|
| 売上高 | 4,884,470 | 3,964,244 |
| 売上原価 | 3,900,044 | 3,027,214 |
| 売上総利益 | 984,425 | 937,029 |
| 販売費及び一般管理費 | 726,252 | 674,174 |
| 営業利益 | 258,173 | 262,855 |
| 営業外収益 | 10,762 | 27,472 |
| 営業外費用 | 4,390 | 11,429 |
| 経常利益 | 264,545 | 278,899 |
| 特別利益 | — | — |
| 特別損失 | 9,128 | 16,783 |
| 税金等調整前当期純利益 | 255,416 | 262,115 |
| 法人税、住民税及び事業税 | 149,543 | 101,005 |
| 法人税等調整額 | △10,671 | 37,077 |
| 少数株主利益又は少数株主損失(△) | △222 | 92 |
| 当期純利益 | 116,766 | 123,940 |

| | 前連結会計年度 (2009年6月30日) | 当連結会計年度 (2010年6月30日) |
|----------------|-------------------------|-------------------------|
| 負債の部 | | |
| 流動負債 | 706,238 | 643,603 |
| 固定負債 | 79,247 | 66,151 |
| 負債合計 | 785,485 | 709,755 |
| 純資産の部 | | |
| 株主資本 | 3,004,071 | 3,105,797 |
| 資本金 | 853,612 | 860,919 |
| 資本剰余金 | 567,514 | 574,821 |
| 利益剰余金 | 1,658,418 | 1,745,531 |
| 自己株式 | △75,474 | △75,474 |
| 評価・換算差額等 | △9,539 | △12,354 |
| 新株予約権 | — | 12,002 |
| 少数株主持分 | 16,912 | 16,935 |
| 純資産合計 | 3,011,445 | 3,122,382 |
| 負債純資産合計 | 3,796,930 | 3,832,137 |

連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

| | 前連結会計年度 (2008年7月1日から 2009年6月30日まで) | 当連結会計年度 (2009年7月1日から 2010年6月30日まで) |
|----------------------|--|--|
| 営業活動によるキャッシュ・フロー | 402,425 | 419,486 |
| 投資活動によるキャッシュ・フロー | 4,303 | △42,424 |
| 財務活動によるキャッシュ・フロー | △34,170 | △20,563 |
| 現金及び現金同等物に係る換算差額 | △3,637 | △2,023 |
| 現金及び現金同等物の増減額 | 368,920 | 354,475 |
| 現金及び現金同等物の期首残高 | 1,507,187 | 1,876,107 |
| 連結除外に伴う現金及び現金同等物の減少額 | — | △36,781 |
| 現金及び現金同等物の期末残高 | 1,876,107 | 2,193,802 |

■ 会社概要

商号

株式会社ユビテック
Ubiteq, INC.

設立

1977年(昭和52年)11月17日

所在地

〒141-0031
東京都品川区西五反田一丁目18番9号
五反田NTビル

資本金

860,919,338円

金融商品取引所

大阪証券取引所(ヘラクレス・スタンダード)

会計監査人

有限責任 あずさ監査法人

証券コード

6662

従業員数

161名(連結)

■ 役員 (2010年9月24日現在)

| | |
|---------|----------|
| 代表取締役社長 | 荻野 司 |
| 取締役会長 | 藤原 洋 ※1 |
| 常務取締役 | 明石 直人 |
| 常務取締役 | 白木 道人 |
| 取締役 | 平田 満 |
| 取締役 | 野方 孝之 |
| 取締役 | 徳田 英幸 ※1 |
| 取締役 | 江崎 浩 ※1 |
| 取締役 | 梁瀬 行雄 ※1 |
| 常勤監査役 | 松井 和明 ※2 |
| 監査役 | 小林 稔忠 ※2 |
| 監査役 | 与謝野 肇 ※2 |
| 監査役 | 高橋 通 ※2 |

※1 藤原 洋氏、徳田 英幸氏、江崎 浩氏、梁瀬 行雄氏は会社法第2条第15号に定める社外取締役であります。
※2 松井 和明氏、小林 稔忠氏、与謝野 肇氏、高橋 通氏は会社法第2条第16号に定める社外監査役であります。

■ 株式情報

発行可能株式総数-----520,000株
発行済株式総数-----142,380株
株主数-----1,983名

■ 大株主の状況 (2010年7月8日現在)

| 株主名 | 持株数(株) | 出資比率(%) |
|---------------------------|--------|---------|
| オリックス株式会社 | 85,272 | 60.5 |
| パナソニック電工株式会社 | 14,400 | 10.2 |
| 荻野 司 | 2,755 | 2.0 |
| 日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口) | 1,634 | 1.2 |
| サン・クロレラ販売株式会社 | 1,550 | 1.1 |
| 株式会社サン・クロレラ | 1,000 | 0.7 |
| 藤本 琢磨 | 930 | 0.7 |
| 大阪証券金融株式会社 | 896 | 0.6 |
| 糸谷 輝夫 | 793 | 0.6 |
| 明石 直人 | 522 | 0.4 |

※上記のほか当社所有の自己株式1,400株があります。
※2010年(平成22年)7月、株式譲渡により、親会社及び筆頭株主が株式会社インターネット総合研究所からオリックス株式会社へ異動いたしました。

■ 株主メモ

事業年度 毎年7月1日～翌年6月30日
 期末配当受領株主確定日 毎年6月30日
 中間配当受領株主確定日 毎年12月31日
 定時株主総会 毎年9月下旬
 株主名簿管理人 三菱UFJ信託銀行株式会社
 特別口座の口座管理機関
 同連絡先 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号
 TEL 0120-232-711(通話料無料)
 公告の方法 電子公告により行う
 公告掲載URL <http://www.ubiteq.co.jp/>
 (ただし、電子公告によることができない事故、その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に公告いたします。)

(ご注意)

- 株券電子化に伴い、株主様の住所変更、その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてもお取り扱いいたします。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

IR活動の取り組み

アナリスト・機関投資家説明会を開催しました。

アナリスト・機関投資家の皆様に、ユビテックの事業内容や今後の展望について、代表取締役社長 荻野 司から直接ご説明させて頂く機会として、年2回、アナリスト・機関投資家説明会を開催しています。

今回は、2010年8月19日(木)に東京証券会館で開催されました。機関投資家やアナリストの皆様にお集まり頂き、熱心に当社の説明を聴いて頂きました。

この内容は、ホームページ上で動画配信しておりますので、是非ご覧ください。

株主アンケートについて

同封のアンケートにて、株主の皆様のお声を是非お聞かせください。(切手不要)

● ホームページのご案内 ●

当社ホームページでは、最新のニュースやIR情報など当社をご理解頂くためのさまざまな情報を提供いたしております。

<http://www.ubiteq.co.jp/index.html>

株主および投資家の皆様に向けた内容をご覧頂けます。

決算短信、決算説明会資料、有価証券報告書、ビジネスレポートなどを掲載しています。

決算説明会の動画はこちらよりご覧頂けます。

